

県立向陽高校への併設型中高一貫校の設置についての要請

平素から、教育発展のために、御努力いただいていることに敬意を表します。

さて、沖縄県の教育活動における確かな学力の向上においては、小学校は、全国水準を上回り、中学校はその差を縮めつつありますが、県内の高校進学率及び大学進学率は、全国と比較すると大きな差があり、引き続き教育環境の整備に努める必要があります。

みだしの県立向陽高校は、「国際文科」と「理数科」は県全域で、「普通科」は八重瀬町を含む島尻学区（6市町村）の特色ある進学校として、1994年4月に開校し27年目を迎えております。その間、県内外の国公立大学をはじめ、難関私立大学など、多くの実績をあげ、卒業生は島尻地区はもとより、県内外において活躍しております。また2019年から2024年度までスーパーサイエンスハイスクールの文部科学省指定を受け、2019年度の大学合格実績として、国公立大学合格者131名、卒業生に対する合格率54.8%で、過去最高の実績をあげております。

さらに、21世紀を切り開くリーダーとして、地域社会や国際社会に貢献できる心豊かな人材の育成を図るために、全国の私立学校、公立学校における進学校への併設型中高一貫校の設置は、必須となりつつあります。沖縄県においても2016年度に開邦中学校と球陽中学校を開校し、2019年度より2クラス体制となり、大きな成果が期待されております。また、2014年の県議会2月定例会の一般質問において向陽高校へ併設型の中高一貫校の設置について、当時の諸見里教育長は、「開邦中、球陽中の実績を踏まえ検討する」と回答しております。

このようなことから、「21世紀をリードするグローバルな高い志」をもつ、島尻地域の人材を育成するためには、これまで進学校としての歴史と伝統、実績のある県立向陽高校にこそ、併設型の中高一貫校を設置すべきであると考え、下記の事項を強く要請いたします。

記

- 一、 現在策定中の次期「県立高等学校編成整備計画」に、向陽高校へ併設型中高一貫校の整備計画を位置づけること。
- 一、 開邦中学校、球陽中学校と同様、島尻学区（八重瀬町、豊見城市、糸満市、南城市、与那原町、南風原町）の進学校である向陽高校へ、早期に併設型中高一貫校を設置すること。

令和2年12月9日

沖縄県八重瀬町議会

あて先

沖縄県知事	玉城康裕	殿
沖縄県議会議長	赤嶺昇	殿
沖縄県教育長	金城弘昌	殿